## 新型コロナ感染者が全国拡大！気になる新変異株「XEC」も登場…どこまで警戒すべきか

2024年11月24日日刊ゲンダイ

また流行が本格化するのか。新型コロナウイルスの感染者が増えている。

厚労省は22日、全国約5000の定点医療機関から11～17日に報告されたコロナの新規感染者数が9406人で、1機関当たり1.90人だったと公表。前週比1.29倍で、約3カ月ぶりに増加に転じた。

滋賀、香川、愛媛、熊本、宮崎を除く42都道府県で増加し、北海道4.75人、岩手5.57人、秋田6.33人など北日本の増え方が顕著だ。寒さが影響しているとみられる。

気になるのが新たな変異株の登場だ。オミクロン株の変異株「XEC」が世界的に広がりつつあり、WHO（世界保健機関）によれば、欧州や米国などの他、日本からも報告があるという。東大医科学研究所の研究チームは、「XECは現在主流の『KP.3』よりも広がりやすく、過去の感染で得られた免疫から逃れる能力も高い」との分析結果をまとめている。

今冬のコロナはどの程度、警戒が必要なのか。「これまでのワクチンが効かない感染力の強い新たな変異株が出てくるのは毎年のことです。慌てないで、手洗いやうがいなど予防策を講じてください」（医療ガバナンス研究所理事長・上昌広氏=内科医）

米国ではすでに3割がKP.3からXECに置き換わったという。

「KP.3もXECも、JN.1株の系統です。子孫株ですから、根本的に違う変異株ではありません」（昭和大医学部名誉教授の二木芳人氏=臨床感染症学）昨年も11月半ばからコロナ感染者は増え出し、正月明けがピークだった。今季はインフルエンザ感染の立ち上がりが早く、コロナとインフルの同時流行（ツインデミック）の可能性もあるとされる。

「でも第一にコロナ対策です。死者数が10倍以上違いますから」（上昌広氏）

感染症法上の位置づけが2類相当から5類になって「コロナは風邪」みたいに軽く考えがちだが、実は5類になった昨年5月以降の1年間で、コロナによる死者数は3万2576人に上っている。同時期のインフル死亡者数2244人の約15倍だ。

「まだまだコロナは怖い病気です。『コロナは風邪』なんてとんでもない。65歳以上の高齢者は、10月から始まった定期接種で新しいタイプのワクチンを打っておいた方がいい。新ワクチンにはXEC株も入っているのでXEC株にも効くと思われます」（二木芳人氏）

手洗い、うがい、マスクといった感染対策はもちろん、コロナかなと思ったらすぐ検査。自分の重症化を抑え、他人にうつさないためにも、とのことだ。

## 最新ワクチンでなければコロナ重症化は予防できない？ 米国医師会の内科専門誌に論文

2024年8月25日日刊ゲンダイ

新型コロナウイルスは世界各地で独自の変異を繰り返した結果、さまざまな変異株が報告されています。2023年から24年の初頭にかけて、同ウイルスの主流株はオミクロン変異株の派生型であるXBB系統でした。そのため、23年秋冬の接種において用いられた新型コロナウイルスワクチンも、XBB.1系統に対応していました。その結果、XBBワクチンを接種していた人では、同ワクチンを接種していない場合と比較して新型コロナウイルス感染症による入院リスクが62%、統計学的にも有意に低下しました。一方、従来のウイルス株対応ワクチンについては、過去の接種回数に関係なく入院リスクの低下は認められませんでした。論文著者らは「新しい流行株に対応したワクチン接種の推奨を支持する結果である」と考察しています。